

保健体育

(12) 保健体育

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康について自他の課題を発見し、合理的な解決のための活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動や、個人生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用して、学習活動などを行うための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できるようにする工夫 (5) 体育分野におけるスポーツとの多様な関わり方や保健分野の指導について、具体的な体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日的課題への配慮

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について どの単元においても「活用する」や「広げる」を学習することで深い学びに導くよう工夫されている。学習したことを生かすよう、章末の「学習のまとめ」に「活用問題」が設定されている。〔例〕(P7等)</p> <p>●着眼点(2)について 学習のまとめりに、「発問」に対し資料をもとに考えたり、話し合ったりする活動が取り入れられている。〔例〕(P6等)</p> <p>●着眼点(3)について 情報モラルに関する資料が掲載されており、情報活用能力の育成に向け工夫されている。〔例〕(P46、P109)</p> <p>●着眼点(4)について 各章末に知識の習得を確認する「確認の問題」と、知識を活用して考える「活用の問題」をすることで学習を振り返る工夫がされている。〔例〕(P18等)</p>	<p>●着眼点(5)について 体育活動中の事故について注意を促し、予防方法を示している。自然災害の防止では地域との連携の大切さや取組の具体例があげられている。〔例〕(P75)</p> <p>●着眼点(6)について オリンピック・パラリンピックを切り口に、実際に中学生が活動をしている写真等も掲載することで興味・関心を高める工夫がされている。〔例〕(口絵1~4)</p> <p>●着眼点(7)について ・他教科とのつながりを示す「他教科マーク」を設定する工夫がされている。〔例〕(P5等) ・章のはじめに、学習に関連する小学校の内容と高等学校の内容が示されている。〔例〕(P5、P49等)</p>
4 大日本	<p>●着眼点(1)について 巻頭に「1時間の学習の主な流れ」が示され、各内容に「活用して深めよう」が設定され、学習したことを活用しながら学びをより深めるように工夫されている。〔例〕(口絵17、P5等)</p> <p>●着眼点(2)について 学習ごとに「やってみよう」や「話し合ってみよう」で言語活動が取り入れられている。〔例〕(P5等)</p> <p>●着眼点(3)について 情報活用能力・情報モラルについて効果的に学習できるように特設ページが設定されている。〔例〕(口絵13~14)</p> <p>●着眼点(4)について 各単元においてキーワードが設定されており、各単元で学習した内容を自ら振り返り、学習を深めることができるよう工夫されている。〔例〕(P5等)</p>	<p>●着眼点(5)について 「家」・「地域」マークを設定し、関係があるページにマークされており、家庭や地域社会と連携した学習ができるよう設定されている。〔例〕(P96)</p> <p>●着眼点(6)について 導入の活動「つかもう」では、生徒に身近な題材を取り上げることで、自主的・自発的な学習につなげるための工夫がされている。〔例〕(P4等)</p> <p>●着眼点(7)について ・「食生活と健康」において、「技術・家庭科」との関連が図られている。〔例〕(P20) ・章のはじめに、小学校や高等学校の関連する学習内容が示されている。〔例〕(P71等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
50 大修館	<p>●着眼点(1)について 毎授業の課題を「きょうの学習」で示し、学ぶ内容が明確にされている。また、ディスカッションなどを活用して自分の考えを深める工夫をしている。 〔例〕 (P7 等)</p> <p>●着眼点(2)について 各項目の最後には、自ら考え、判断し、表現する力を身につけたりできるような「学習のまとめ」が設定されている。 〔例〕 (P7 等)</p> <p>●着眼点(3)について 運動やスポーツ・健康に関する情報の存在と活用方法が示されており、情報活用能力の育成に向け工夫されている。 〔例〕 (P11、P107、P117 等)</p> <p>●着眼点(4)について 各章の最後に「章のまとめ」を設け、観点ごとに学習を振り返り、知識の確認や学びを深めることができるよう工夫されている。〔例〕 (P14～P15 等)</p>	<p>●着眼点(5)について 体を実際に動かして身につける内容は、見出しに「実習」として明示し、写真やイラストを用いて解説されている。 〔例〕 (P52、53)</p> <p>●着眼点(6)について 運動やスポーツには様々なかわり方があることを示しており、自分の興味関心に応じて運動やスポーツを楽しむ内容が示されている。 〔例〕 (P8、9)</p> <p>●着眼点(7)について ・関連する内容が他教科にある場合は、「他教科マーク」を示す工夫がされている。〔例〕 (P30 等) ・各章のはじめに、小学校と高等学校の学習内容が示されている。 〔例〕 (P4、P74 等)</p>
224 学研	<p>●着眼点(1)について 「課題をつかむ」で学習課題を明確にし、「まとめる・深める」で人に伝えたりすることで考えを深め、実生活につなげていく工夫がされている。 〔例〕 (P16、P17 等)</p> <p>●着眼点(2)について 「考える・調べる」では、グループで考えたり、調べたり、話し合ったりする活動が取り入れられている。 〔例〕 (P21 等)</p> <p>●着眼点(3)について 各章のはじめに、「保健体育と情報」が設けられており、情報活用能力の育成に向け工夫されている。 〔例〕 (P38、P117、P171 等)</p> <p>●着眼点(4)について 章末の「章のまとめ」において、学習で習得した知識の確認や学習の振り返り、実生活へつなげる記述欄などが設定されている。〔例〕 (P25 等)</p>	<p>●着眼点(5)について 知識だけでなく実習や体験的な学習を重視し、随所に取り入れられている。また、実習の動画や関連サイトと連動「教科書サイト」が掲載されている。 〔例〕 P124～127</p> <p>●着眼点(6)について 生徒の興味や関心を引き出すために「探しようよ！」という見出しのページにおいて、より詳しい資料や実践例が掲載されており、自発的な学習を促す工夫がされている。〔例〕 (P22 等)</p> <p>●着眼点(7)について ・キャリア教育の観点から各内容に関連した「JOB」が掲載されている。 〔例〕 (P19 等) ・各章のはじめに、小学校で学習した内容や、高等学校で学習する内容が示されている。〔例〕 (P26、P84 等)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総ページ	(1)内容別配当の分量						(2)教材・資料等の分量							
		健康な生活と疾病の予防	心身の発達と心の健康	傷害の防止	健康と環境	索引	その他	資料としてのグラフ数	写真掲載数	脚注の数	書き込み欄の数			話し合いの設問の数	三重県に関わる記述等
											記号などで書き込む	表やグラフへ書き込む	文章で書き込む		
2 東書	206	57	41	46	32	2	28	82	236	560	220	61	136	52	—
4 大日本	195	48	55	43	27	2	20	55	336	867	0	0	40	30	○
50 大修館	198	56	42	40	34	2	24	60	335	594	402	10	133	36	○
224 学研	206	66	41	41	35	4	19	47	361	1126	168	1	76	38	—

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」が学習の流れに沿って配置されている。 ・各章末に知識の習得を確認する「確認の問題」と、知識を活用して考える「活用の問題」が設けられている。 ・常用漢字について全てルビが付き、ユニバーサルデザインのフォントが採用されている。またカラーユニバーサルデザインの観点からも色の情報以外の模様や記号などを用いて識別・判別ができるよう配慮されている。 ・理解を深めるために二次元コードを配置し、関連する動画などを観ることができる。
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・アスリートや中学生がスポーツで活躍している場面や、中学校生活の親しみの持てる場面の写真を掲載し、わかりやすい説明になっている。 ・課題を見つけて解決していく、課題解決的な学習が行えるよう主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「保健体育の見方・考え方」を働かせて考える活動を多く取り入れている。 ・各小単元の「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」で思考力、判断力、表現力等が育成されるよう配慮している。 ・知識の定着を図るため、各小單元においてキーワードで学習の内容の振り返りをし、各章末では重要語句や要点の再確認ができるよう配慮している。
50 大修館	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって学習できるよう学習の流れや学び方が説明されている。 ・学習課題を明確にし、各項目の冒頭には生徒の学習意欲を引き出し気づきや思考を促す「導入発問」、最後には自ら考え・判断し・表現する力を身につける「項末問題」が設けられている。 ・グループで話し合ったり、発表しあったりして「学びを深める課題」があり、言語活動の充実する内容がある。 ・教科書に代えて使用できる拡大教科書も用意されている。また、読むべき本文と資料を明確にして区別されている。
224 学研	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・健康・安全の分野で活躍する人物を取り上げ、個人の能力の発揮や、生活と職業との関係を身近にするとともに、勤労を重んじる態度が養われるよう配慮されている。 ・単元ごとに、比べる、確かめる、話し合う（表現する）等の活動を取り入れ、課題を見つけ、その解決に向けて思考・判断したり、表現したりすることができるよう配慮されている。 ・教科書紙面に二次元コードを配置し、関連する動画などを観ることにより、より広く、深く学習することができる。 ・章末には、研究課題や自己評価欄があり、課題解決的な学習や学習意欲が持てるよう配慮されている。

3 その他

今日的課題への配慮	
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの価値や、過去の大会で躍動したアスリート、国を超えた選手同士の交流などが取り上げられている。 ・多様性に配慮されており、性に関する資料や、障がいの有無や人種などを超えて人々を結びつけるスポーツの魅力などについて取り上げられている。 ・自然災害の防止には、地域との連携の大切さや、取組の具体事例が取り上げられている。
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの歴史を写真等を利用し説明しており、スポーツの意義や価値等の理解につながるよう設定されている。 ・さまざまな人々が生きている社会のなかで、お互い認め合い、尊重し合うことの大切さを実感することができるよう工夫されている。 ・自然災害に対する備えと共に、いざというときに命を守るためにどのような行動をすればよいかについて示されている。
50 大修館	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックが開催されることを取り上げ、日本人選手の活躍や大会にかかわる人々の紹介を通して、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう示されている。 ・書家の題字や様々な人々の生きる姿を取り上げ、個人の価値の尊重や、自他の敬愛と協力を重んずる態度を育成できるよう示されている。 ・防災教育の観点より、自然災害から命を守るための行動の仕方や情報の活用方法が取り上げられている。
224 学研	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックという大きなスポーツイベントを取り上げ、スポーツの魅力を知ることを通して、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるよう工夫されている。 ・多様性の尊重や共生の視点が重視されており、学習全体を通じ、運動・スポーツ、健康・安全について、様々な人がいることが取り上げられている。 ・自然災害における安全の確保の内容が充実しており、過去の大きな災害から学ぶ教訓の形で示されている。